

令和5年度 第1回 守口市市民協働推進会議 兼 報告会 会議要録

令和5年10月4日(水) 午前10時00分～
中部エリアコミュニティセンター 会議室2

出席者

【委員】

久保由加里会長、田中逸郎副会長、平井良治委員、深田政好委員、東野邦子委員、仲嶋浩平委員、横山淳委員、加藤淳一委員

【事務局】

コミュニティ推進課課長 山本、課長代理 木南、主任 藤田、一井

会議要録

【開会】

- 事務局あいさつ
- 出席委員の確認 出席委員8名(欠席委員:小出委員)
- 会長、副会長の選出

【議題1】「令和4年度実施事業報告会」

◆(報告1)

「ばあばとお料理実習」:守口市シルバー人材センター・コミュニティ推進課
では、「ばあばとお料理実習」の報告を始めさせていただきます。

2年前のこれくらいの時期に、提案をさせていただき、採択をしていただいて、令和4年度に実施した事業でございます。

開催のスケジュールとしては、合計で3回実施する予定でした。第1回目は5月、第2回目は8月、第3回目は2月というスケジュールでしたが、令和4年度はコロナウイルスの影響がありまして、第2回目は残念ながら中止となってしまいました。

第1回目は中部エリアコミュニティセンター、第3回目は西部コミュニティセンターで開催することができました。この事業の目的なんですけれども、シルバー人材センターは市内の60歳以上の方に登録していただいてその方たちにお仕事をしていただくということなんです、その登録していただいている会員の方に「ばあば」として先生になっていただいて、参加いただいている親子の方とお料理をすることで、核家族化が進んでいる中、世代間交流をすることを目的としています。

開催までのプロセスとしては、シルバー人材センターとしては令和3年11月頃採択されてから、女性部運営委員会という委員会でこの企画を進めていきました。例えば、メニューの選定、守口市内で採れたお野菜を使うということや、当日の安全配慮について等検討を進めました。次に、コミュニティセンターの役割としては、開催の約1か月ごろ前からコミュニティセンターのホームページにて参加募集をしていただいて、なおかつ、チラシを作成し集客していただきました。市役所については、広報で事業内容を周知していただきました。

第1回目の内容に関しては、令和5年5月22日(日)中部エリアコミュニティセンターの調理室で実施していただきました。メニューについては、エンドウ豆ご飯、アスパラのベーコン巻き、キャベツと玉ねぎの味噌汁、ポテトサラダ、なすときゅうりの浅漬けの合計5品を各家族で作っていただきました。参加

者としては、4家族9名の方に参加していただきました。当日の風景ですが、左上の女性の方たちが「ばあば」として来ていただいた女性部運営委員会の方々です。右上の写真が実際の調理をしているところになります。エンドウ豆ご飯の豆を鞘からとっているところです。皆さん楽しくご参加いただきました。下の写真が完成したお料理です。このようにきれいに盛り付けし、皆さん一斉に食事をして、片付けも一緒に行っていただきました。

続きまして、第2回目（当初で言う第3回目）ですが、場所は西部コミュニティセンターの調理室で12月18日日曜日に開催させていただきました。メニューに関しては、ご飯、筑前煮、豚汁、ホウレンソウの卵とじ、菊芋のポタージュです。参加者については、第1回目の教訓を生かして、3家族9名となりました。第1回目の時に参加家族が多く、少し手こずることがありましたのでしっかりとばあばが各家族について実習ができるように3家族とさせていただきました。当日はお部屋の前に委員の方に作っていただいた目印貼って、参加者の方を出迎えました。西部コミュニティセンターは中部エリアコミュニティセンターと比べるとコンパクトな部屋だったんですが、道具もしっかりと揃っていて、時間通りにできあがることができました。事業結果として、簡単にまとめたものなんですが、参加者合計7家族18名の方に参加いただくことができました。満足度に関しては、当日アンケートを皆さんに書いていただいたんですが、全てのご家族の方にご満足いただける結果となりました。当初の目的である世代間交流を構築するという目的は達成できたと考えております。

課題としては、完全にシルバー人材センターの目線になるんですが、費用対効果という面で言えば、1家族参加料300円はご負担いただいたんですが、材料費、人件費は実質シルバー人材センターの負担ということで、シルバー人材センターの持ち出しもそれなりにあった中でどれほどの効果があったのかということ、今後その効果は現れるのかもしれないですが、シルバー人材センターにおいて効果を測定する指標なんですが、1つは入会者数が増えること、もう1つはシルバー人材センターにお仕事を依頼してもらえ方が増えること、この2点になります。なかなか入会説明会ですとか、問い合わせでこのばあばを見て、という方は確認できていないのでそういった点が課題かと思っております。

簡単ではありますが、以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【質疑応答】

- 委員：発表はとても良かったんですが、シルバー人材センターの会員数の動向を教えてくださいませんか。
- プレゼンター：減少傾向にあります。4年前1300人ほどの会員数でしたが、現在は1100人ほどです。背景は色々考えられるんですが、1つはコロナ禍で就業に対して消極的になってしまっていること、また1つは現役世代として、60歳定年を迎えても同じところで65歳まで働くことがスタンダードになっていてシルバーでいうところの若年層の方の会員が減っているところがあります。
- 会長：アンケートはどのようなアンケートを取られたんでしょうか。
- プレゼンター：A41枚で、設問としては、この講座をどのようにして知りましたかということと満足度を5段階で書くところと、感想を自由に書くところと、ご要望を聞いていただくところを設けました。特に自由記入欄に書かれたものとしては、小学生のお子さんに書いていただいたものが多いんですけども例えば、2回目の菊芋のスープがおいしかったとか実際に作ってみて楽しかったとか家でも作ってみたいという記載がありました。主役であるお子さんに大変楽しんでいただけたということが分かりました。
- 会長：世代間交流や、野菜嫌いを解消するということがあったのでどういう感想だったのかということを知りたかったのでこの質問をさせていただきました。こどもたちにとって野菜っておいしいんだなと非常に大きなインパクトになり、非常に良い機会になったと思います。保護者の方も一緒

に参加されていますが、作って終わりということではなく、野菜嫌いはなかなか1回で解消するというのではなく、きっかけにはなると思うんですが継続は必要で、それをここでやってということではないんですが、例えば作って美味しかったということだけではなく、保護者の方にも人参でもこう切ったら良いとか、ばあばの知恵をお伝えして、引続きおうちでもこうすると良いというアドバイスがあればと思いました。なかなか作って食べて片付けてと余裕はないかもしれませんが、次回もしまたこういう機会があれば、ぜひ次につながるお知恵というのを意識しながらやっていたらいいと思います。

○アドバイザー：おっしゃるとおりで、アンケートにもレシピを欲しいという要望がありましたので、企画が終わったら終わりではなく、次に生かせるものがあれば良かったなということで、先ほど課題を挙げさせていただきましたが、それに付け加えて、こちらも課題の1つとさせていただきます。

○委員：質問が2点あります。1点は、目的の中に守口で採れた野菜とあるんですが、どれが守口産の野菜なんですか。

○アドバイザー：第1回目については、米、エンドウ豆、人参、玉ねぎ、ナス、アスパラ、キャベツ、第2回目については、大根、菊芋、ネギ、人参、ほうれん草、米です。シルバーに登録されている会員の方が作ったものです。

○委員：たくさん使われていて、子どもたちに守口産の野菜を知ってもらえて良かったのかなと思います。2点目なんですが、目的に世代間交流とあり、これは達成できたということなんですが、これは調理をしているときだけの交流なのか、その後何か継続して世代間交流が創出できたのかということか教えていただけますか。

○アドバイザー：その後シルバーの会員さんと参加者が継続して交流しているということではなく、どうしてもこの機会だけになってしまいますが、先ほどいただいたご質問にもあったように、例えば、レシピをホームページに公開するとか、シルバーで発行している小さな新聞になるんですが、事務局便りにレシピを掲載するとか、交流を創出することはできなくても、何かしらの影響を与えられるようになるかと思うので、1つの課題とさせていただきます。

○委員：開催後もホームページを見たりして、子どもたちがあのおとき楽しかったなと思出すのも面白いと思いますし、核家族化でそもそもおばあちゃん自体を知らない子どももいるかもしれないので、そういったところでは良い交流になったのではと思います。

○委員：シルバー人材センターはこういうイベントや事業は結構されているんでしょうか。

○アドバイザー：かつてはやっていましたが、コロナ禍になりまして、年に1度のシルバーフェアといって10月に守口市駅前カナディアンスクエアでシルバーの中でも植木の剪定をする班、除草する班、それぞれの班でブースを設け、シルバー人材センターの普及・啓発をするという一大イベントだったんですが、こういったイベントもコロナ禍で中断したままになっています。これから、アフターコロナの感覚になっているので、シルバーフェアやバスツアーなど今までやっていたイベントも復活していけたらと思っています。

○委員：バスツアーは会員向けですか？

○アドバイザー：会員の親ぶくを深めるためのものです。

○委員：守口市の地産地消ということで守口市でも農家さんが減ってきていて、子どもたちにも作るころから廃棄するまですべてを見せて自分たちの給食がどうやってできているかを見せようというのをやっていて、シルバーさんの方から農家さんへ人を出していただいて、子どもたちと農作業をしていただいて、調理場には入れませんが給食を食べるときもお手伝いしていただいてということをしていただければ世代間交流の創出ができるのではないかと思います。

あと、女性部ということなんですが、今はどこも性別で分けるということはやっていないと思います。

○プレゼンター：全国的にシルバー人材センターは各市に一つずつ存在しているんですが、どうしても男性に比べ女性の会員数が少ないという背景があり、発足当時は女性の会員を増やしていこうというところだったんですが、そういう委員会があること自体が今の時代とずれが生じているのかなと思いました。この女性部運営委員会に限らずシルバーには様々な委員会があるんですが、このあり方についても事務局で精査したいなと思いますので参考にさせていただきます。

【議題2】守口市公募型協働事業提案制度（令和5年度募集、令和6年度実施分）

第1次審査（書類審査）

「守口市公募型協働事業提案制度（令和4年度募集・令和5年度実施分）第1次審査（書類審査）」について審議を進めたいと思います。

今回3件の応募があり、1件ずつその内容を検討し、1次審査の採択・不採択を決定してまいりたいと思います。

審査に入ります前に、改めて審査・選考方法、評価のポイントについて説明してもらえますか。

○事務局 では改めまして審査・選考方法、評価のポイント等の確認をさせていただきます。募集要項には、第1次審査（書類審査）で提案された全ての事業について、提出書類による審査・選考を行う。第1次審査を通過した事業について、第2次審査（公開プレゼンテーション）を行ない、「提案の採用・不採用については、第1次審査と第2次審査の内容を総合的に審査し、決定します。」と記載しております。

また、審査項目としまして、公益性、継続性、協働性、先駆性・創造性、実現性の項目とそれぞれの評価のポイントを記載しております。

各委員には、提案資料と審査項目をもととする採点表をもって、計30点満点で採点いただき、その採点表も議論の一つの材料として、第1次審査における採否をお願いするものでございます。

なお、市民課題提言型については、提言者は個人であり、団体のプレゼンテーションの予定はありませんので、第1次審査にて採択、不採択を決定していただくこととなります。

以上でございます。

◇市民課題提言型「流産・死産を経験した女性やその家族を支援するグリーフケア・ピアサポートの窓口を設置する。流産・死産後の産後ケア事業の見直しと相談や話会の場を提供する。」

―― 【検討・審査内容については非公開】 ―――

不採択

◇市民課題提言型「空き家と市民とマッチングプロジェクト」

―― 【検討・審査内容については非公開】 ―――

不採択

◇守口門真歴史街道推進協議会、東海道57次 宿駅完成400年記念プロジェクト

―― 【検討・審査内容については非公開】 ―――

2次審査へ

